

【国語科】

論理国語

履 修 学 科	全科共通
履 修 学 年	第2学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2単位
教 科 書	新 論理国語（三省堂）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	「導入」	- 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。 - 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。
	5	「1 論点を整理するために」	文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深める。
	6		文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握する。
前 期 期 末	7	「2 正しく推論するために」	- 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使う。 - 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。
	8	「3 事例の意味を探るために」	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	9		- 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。 - 推論の仕方について理解を深め使う。
後 期 中 間	10	「4 構成を吟味し説得力を高めるために」	- 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。 - 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりする。
	11	「5 信頼性を吟味するために」	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。
			主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。
後 期 期 末	12	「6 隠れた前提を探すために」	文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。
	1		文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価する。
	2		設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりする。
	3		立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫する。

考查の実施	年4回実施（前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○文章表現：「国語表現ナビ」（浜島書店） ○漢字：「常用漢字の1・2トライ」（浜島書店）			

【国語科】

国語表現

履修学科	全科共通
履修学年	第2学年（進学コースのみ選択者）
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	国語表現（大修館書店）

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	○言葉と出会う 言葉と表記～ 相手に応じた言葉遣い	○ 表記の決まりを意識し、正しく書く。漢字や慣用表現を正しく使う。
	5	●伝える、伝え合う 自己紹介ゲーム～	○ 係り受けや文末表現について理解する。
	6	言葉のストレッチ体操 ◎表現への扉① ◎図書の探し方	○ 話し言葉と書き言葉の違いや、その使い分けについて理解する。 ○ 和語・漢語・外来語のニュアンスの違いとその使い分けを理解する。 ● 自己紹介のやりとりをとおして相互理解を図る。 ● 取り上げる内容や話し方を工夫して、わかりやすく自己紹介をする。 ● 伝え合うことを見つめ直し、コミュニケーションの楽しさを知る。 ◎ 言葉に関する文章や資料を読み、表現活動の参考にする。 ◎ 図書の探し方を理解する。
前期 期末	7	○言葉と出会う わかりやすい文を書く～ 文のつながり方	○ 長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。
	8	●伝える、伝え合う 絵や写真を見て書く～	○ 読点を適切に打ち、あいまいな文を避けることの大切さを理解する。
	9	マイニュース記事を書こう ◎表現への扉②	○ 接続表現の種類と働き、文脈による文のつながりを理解する。 ● 図や絵を見て文章を書き、相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解する。 ● 相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解する。 ● 5W1Hを明確にし、事実と意見を区別して書く。 ◎ 伝え方に関する文章や資料を読み、表現活動の参考にする。
後期 中間	10	○メディアを駆使する ◎表現への扉⑤	○ さまざまな通信文の形式を理解し、相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。
	11	●敬語のまとめ	○ 相手に応じた適切な言葉遣いや応答のしかたを理解する。
	12	◎原稿用紙の使い方	○ インターネットでのコミュニケーションの特長や情報の検索のしかた、使用上の注意点を理解する。 ◎ 言葉に関する文章や資料を読み、表現活動の参考にする。 ● 敬語についての正しい理解をもち、その使い分けを理解する。 ◎ 原稿用紙の使い方を理解する。
後期 期末	1	○会話・議論・発表 相手や場面に応じた会話～	○ 場面にふさわしい言葉遣いを考える。
	2	建設的な議論の進め方	○ 話し合いのステップを意識しながら話し合いをし、建設的なものになるように協力し、結論を出すために貢献する。
	3	◎表現への扉⑥	◎ コミュニケーションを豊かにするためにに関する文章や資料を読み、表現活動の参考にする。

考査の実施	年2回（前期期末・学年末）			
	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 小テスト	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○文章表現：「国語表現ナビ」（浜島書店） ○漢字：「常用漢字の1・2トライ」（浜島書店）			

【地歴公民科】

地理総合

履修学科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新地理総合」(帝国書院)

学期・月		項目	学習内容(ねらい)・評価の観点
前期 中間	4	第一部 地図でとらえる現代世界 ○第一章 地図と地理情報システム ○第二章 結び付きを深める現代世界	・地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 ・位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・地図や地理情報システム、現代世界の地域構成について課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	5		
	6		
前期 期末	7	第二部 国際理解と国際協力 ○第一章 生活文化の多様性と国際理解 ・世界の地形と人々の生活 ・世界の気候と人々の生活	・人々の生活文化が地理的環境から影響を受けることを理解している。 ・世界の人々の生活文化の多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・生活文化の多様性と国際理解について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	8		
	9		
後期 中間	10	・世界の言語・宗教と人々の生活 ・歴史的背景と人々の生活 ・世界の産業と人々の生活 ○第二章 地球的課題と国際協力	・地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。 ・持続可能な社会づくりなどに着目し現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・地球的課題と国際協力について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	11		
	12		
後期 期末	1	第三部 持続可能な地域づくりと私たち ○第一章 自然環境と防災	・自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 ・自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自然環境と防災について、課題を追究、解決しようとしている。
	2		
	3		

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	地理に関する諸事象を基に、国家間の結びつき、人々の生活文化の多様性、災害の備えや重要性などを理解するとともに、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解し、情報を収集しまとめる基礎的・基本的な技術を身に付けている。	世界的視野から見た日本や生活文化が見られる場所・自然・社会条件、地球的課題、防災について、意味や特色などを地理的事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、それを基に議論したりする力を身に付けている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
【評価方法】			
授業態度		○	○

発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	
ノート提出	○	○	○
定期考査（年4回）	○	○	
留意事項	※各コース担当で進度調整を行う場合もある。		

【地歴公民科】

歴史総合

履修学科	普通科
履修学年	第2学年（看護医療コース）
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新歴史総合」（第一学習社）

学期・月		項 目	学習内容（ねらい）・評価の観点
前期中間	4	第1部 歴史の扉	・日本と日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し,表現する。 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通,アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に,18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを考察し,表現する。
	5	第2部 近現代の世界と日本	
	6	第1章 近代化と私たち 第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 工業化の進展と国民国家の建設	
前期期末	7	第3節 結び付く世界と日本の開国	・日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に,立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・列強の進出と植民地の形成,日清・日露戦争などを基に,列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ・帝国主義政策の特徴,列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し,表現する。
	8	第4節 帝国主義とアジア諸国の変容	
	9	【近代化と現代的な諸課題】	
後期中間	10	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	・第一次世界大戦の特徴や国際協調体制を理解し,第一次世界大戦後の大衆社会の形成と社会運動の広がり理解する。 ・第二次世界大戦下の社会状況や国際情勢を理解し,第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ・自由・制限,平等・格差などの観点から主題を設定し,現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。
	11	第1節 第一次世界大戦と大衆社会	
	12	第2節 経済危機と第二次世界大戦 第3節 第二次世界大戦後の世界と日本 【国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題】	
後期期末	1	第3章 グローバル化と私たち	・冷戦下の世界経済や地域連携,経済成長による生活や社会の変容などを考察し,経済成長下の日本の社会を理解する。 ・冷戦終結後の国際政治の変容と日本の課題を理解する。 ・日本と他国や地域の動向を多面的・多角的に考察,表現することで,現代的な諸課題を理解する。
	2	第1節 冷戦と植民地化・第三世界の台頭	
	3	第2節 世界秩序の変容と日本 【現代的な諸課題の形成と展望】	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について,現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに,諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義を理解し,相互の関連性や現代とのつながりなどに着目しながら多面的・多角的に考察し,歴史に見られる課題を把握しながら解決を視野に入れて考察,構想したことを効果的に説明,議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について,よりよい社会の実現を視野に現代社会の課題を主体的に追究し解決しようとしている。

【評価方法】			
授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	
ノート提出	○	○	○
定期考査（年4回）	○	○	
留意事項	・ダイアログ歴史総合,新歴史総合ノートの副読本を用いる。 ・各コース担当で進度調整を行う場合もある。		

【地歴公民科】

歴史総合

履修学科	普通科（進学コース）
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「現代の歴史総合 みる・読みとく・考える」（山川出版社）

学期・月		項目	学習内容（ねらい）・評価の観点
前期 中間	4	歴史の扉 第Ⅰ部 近代化と私たち 1 結びつく世界と日本の開国 2 国民国家と明治維新	- 身近な事柄が、歴史と結びつきをもっていることを理解する。 - 資料にもとづいて歴史が叙述されていることを理解し。資料を取り扱う際の留意点に気づくこと。 18世紀のアジアの経済と社会を理解し、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを考察し表現して、工業化と世界市場の形成を理解する。 - 立憲体制と国民国家の形成を理解し、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。
	5		
	6		
前期 期末	7	近代化と現代的な諸課題 第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 3 総力戦と社会運動	- 現代的な諸課題の形成に係る近代化の歴史を理解する。 - 総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解できるようにする。
	8		
	9		
後期 中間	10	4 経済危機と第二次世界大戦 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	- 国際協調体制の動揺を理解し、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 - 現代的な諸課題の形成に係る国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。
	11		
	12		
後期 期末	1	第Ⅲ部 グローバル化と私たち 5 冷戦と世界経済 6 世界秩序の変容と日本 現代的な諸課題の形成と展望	- 国際政治の変容を理解し、世界経済の拡大と経済成長下の日本社会を理解できるようにする。 - 市場経済の変容と課題を理解し、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解できるようにする。 - これまでの学習を踏まえ、現代的諸課題を理解する。
	2		
	3		

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
【評価場面】			
授業中の発言・観察	○	○	○
発問	○	○	○
グループ協議		○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	
振り返り学習		○	○
ノート提出	○	○	○
定期考査（年4回）	○	○	
留意事項	※各コース担当で進度調整を行う場合もある。		

【地歴公民科】

政治・経済

履修学科	商業科，普通科
履修学年	第2学年
履修形態	選択（普）、必修（商）
履修単位	2単位
教科書	「最新 政治・経済」（実教出版）

学期・月		項 目	学習内容（ねらい）・評価の観点
前期 中間	4	第1部 第1編 現代日本の政治	・政治，国家，法のあり方について考える ・基本的人権の歴史的発展や法の支配について理解する。 ・民主政治のしくみと課題を理解したうえで，権力分立と立憲主義の重要性を理解する。
	5	第1章 現代国家と民主政治	
	6	第2章 日本国憲法と基本的人権	
前期 期末	7	第2章 日本国憲法と基本的人権	・日本国憲法の基本原理を理解したうえで，憲法の改正手続きについて考える。 ・自由権と社会権の内容について理解する。 ・新しい人権について理解する。
	8		
	9		
後期 中間	10	第2章 日本国憲法と基本的人権	・日本の安全保障政策の展開について理解する。 ・こんにちの安全保障政策の課題について理解する。 ・国会の役割や権限について理解する。 ・内閣の権限と議院内閣制について理解する。 ・司法制度や司法参加の意義について理解する。 ・地方自治の本旨や住民の権利について理解する。
	11	第3章 日本の政治制度と政治参加	
	12		
後期 期末	1	第3章 日本の政治制度と政治参加	・地方がかかえる課題について理解する。 ・日本の政党政治の特徴と課題について理解する。 ・日本の選挙制度の特徴と課題について理解する。 ・マス・メディアや市民運動の意義について理解する。 ・国際社会の変遷，人権，国家主権，領土（領海，領空を含む）などに関する国際法の意義，国際連合をはじめとする国際機構の役割，我が国の安全保障と防衛，国際貢献について，現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。
	2	第2部 第1編 現代の国際政治	
	3	第1章 国際政治の動向と課題	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	・政治と法の意義と機能，基本的人権の保障と法の支配，権利と義務との関係，議会制民主主義，地方自治について，現実社会の諸事象を通して理解している。 ・国際社会の変遷，人権，国家主権，領土（領海，領空を含む）などに関する国際法の意義，国際連合をはじめとする国際機構の役割，我が国の安全保障と防衛，国際貢献について，現実社会の諸事象を通して理解している。	・民主政治の本質を基に，日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し，表現している。 ・国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に，国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し，表現している。	・国民主権を担う公民として，現代日本の諸課題に対する意識を強く持ち，課題にかかわる知識を主体的に深めたり，課題解決に向けた多面的・多角的な考察・構想を意欲的におこなったりしながら，現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとしている。
【評価方法】			

授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	
ノート提出	○	○	○
定期考査（年4回）	○	○	
留意事項	※各コース担当で進度調整を行う場合もある。		

【数学科】

数学Ⅱ

履修学科	普通科（未来創造・保育）
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	新編 数学Ⅱ （数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1章 式と証明 第1節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 多項式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式	- 多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。 - 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して、2次方程式を解くことができるようにする。
	5		
	6	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式 1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係	
	7	第2節 高次方程式	
	8	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式	
	9		
後期 中間	10	4 2直線の関係 第2節 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円	座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
	11		
学年 末	12	第3節 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域	- 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 - 角の概念を一般角まで拡張し、度数法と弧度法の換算ができるようにする。
	1	第4章 三角関数 第1節 三角関数 1 角の拡張	
	2		
	3		

考査の実施	前期中間・前期期末・後期中間・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【数学科】

数学Ⅱ

履修学科	普通科（進学・看護医療）
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	新編 数学Ⅱ （数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明	- 多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。 - 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できる。 - 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して、2次方程式を解くことができるようにする。 - 剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。
	5	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式	
	6	1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係 第2節 高次方程式	
		4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式	
前期 期末	7	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点	- 座標や式を用いて、直線及び円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 - 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	8	3 直線の方程式 4 2直線の関係	
	9	第2節 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円	
		第3節 軌跡と領域	
後期 中間	10	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	- 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 - 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 - 指数関数や対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	11	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	
学年 末	12	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1 微分係数 2 導関数とその計算	- 微分係数や導関数の意味について理解し、その理解を深め、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 - 積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
	1	3 接線の方程式	
	2	第2節 関数の値の変化 4 関数の増減と極大・極小	
	3	5 関数の増減・グラフの応用 第3節 積分法 6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積	

考查の実施	前期中間・前期期末・後期中間・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【数学科】

数学A

履修学科	普通科（未来創造・保育） 商業科、美術・デザイン科
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	新編 数学A （数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	1章 場合の数と確率	・場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	5	1節 場合の数	
	6	1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列	
前期 期末	7	4 組合せ	・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	8	2節 確率	
	9	5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 9 期待値	
	10	2章 図形の性質	
後期 中間	11	1節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理	・平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	12	4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円	
学年 末	1	3章 数学と人間の活動	・さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。
	2	1 約数と倍数	
	3	2 素数と素因数分解	
		3 最大公約数・最小公倍数	
		4 整数の割り算 5 ユークリッドの互除法 6 1次不定方程式	

考査の実施	前期中間・前期期末・後期中間・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【数学科】

数学 B

履 修 学 科	普通科（進学）
履 修 学 年	第 2 学年
履 修 形 態	選択
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	新編 数学 B （数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第 1 章 数列 第 1 節 等差数列と等比数列 1 数列と一般項	数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。
	5	2 等差数列	
	6	3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和	
前期 期末	7	第 2 節 いろいろな数列 6 和の記号 Σ 7 階差数列	- 和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。 - 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。
	8	8 いろいろな数列の和	
	9	第 3 節 漸化式と数学的帰納法 9 漸化式 10 数学的帰納法	
後期 中間	10	第 2 章 統計的な推測 第 1 節 確率分布 1 確率変数と確率分布	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。
		2 確率変数の期待値と分散	
	11	3 確率変数の和と積 4 二項分布 5 正規分布	
学年 末	12	第 2 節 統計的な推測 6 母集団と標本	母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。
	1	7 標本平均の分布	
	2	8 推定	
	3	9 仮説検定	

考查の実施	前期中間・前期期末・後期中間・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【理科】

物理基礎

履修学科	普通科（進学）
履修学年	第2学年 前期
履修形態	選択
履修単位	2単位
教科書	「新編 物理基礎」(東京書籍)
副教材	「ニューサポート新編物理基礎」 (東京書籍)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	1 編 物体の運動とエネルギー 1 章 直線運動の世界 2 章 力と運動の法則 3 章 力学的エネルギー	・物体の運動を測定し、その運動のグラフで表すことを通して、運動の表し方を理解する。 ・物体の加速度について理解・分析ができ、力の合成と分解をベクトルで表せるようになる。 ・運動の三法則を理解する。 ・摩擦力、及び液体や気体から受ける力を理解する。 ・仕事の定義と仕事の原理について理解する。 ・仕事とエネルギーの関係、および力学的エネルギー保存則を用いて色々な運動を分析できるようになる。
	5		
	6		
前期 期末	7	2 編 さまざまな物理現象とエネルギー 1 章 熱 2 章 波 3 章 電気 4 章 エネルギーとその利用 終章 物理学が拓く世界	・粒子の熱運動と温度との関係を定性的に理解する。 ・粒子の熱運動から、物質の三態変化、絶対温度、及び潜熱について理解する。 ・波の基本的な性質を理解し、波の波長などを分析、計算できるようになる。 ・横波と縦波の違い、波の独立性、重ね合わせの原理、反射、身近な楽器の原理について理解する。 ・静電気や電流について電子の移動と関連付けて理解するとともに、電荷や電流の大きさを定量的に扱えるようになる。 ・交流に関連して電磁波について学ぶ。 ・エネルギーについて学び、その利用と課題について考える。
	8		
	9		
後期		なし	

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	前期中間・前期期末			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	- 授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 - 教科書準拠の問題集「ニューサポート新編物理基礎」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。 2年次では「物理基礎」と「物理」を2単位ずつ。計4単位を履修する。			

【理科】

物理

履修学科	普通科（進学）
履修学年	第2学年 後期
履修形態	選択
履修単位	2単位
教科書	「物理」(東京書籍)
副教材	「ニューアチーブ物理」(東京書籍)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期		なし	
後期中間	10 11	1 編 さまざまな運動 1 章 平面内の運動 2 章 剛体のつり合い 3 章 運動量 4 章 円運動	・平面内を運動する物体の運動について理解する。 ・平面内の運動を表す変異、速度、加速度がベクトルによって表されることを理解する。 ・剛体のつり合いについて理解する。 ・物体の衝突や分裂における運動量の保存について理解する。 ・円運動をする物体の様子を表す方法やその物体にはたらく力などについて理解する。 ・等速円運動の速度などについて理解する。
学年末	12 1 2 3	5 章 単振動 6 章 万有引力 7 章 気体分子の運動	・単振動をする物体の様子を表す方法やその物体にはたらく力などについて理解する。 ・観察や実験、作図などによって単振動と等速円運動を関連付けて理解する。 ・惑星の運動に関する法則を理解する。 ・ボイル・シャルルの法則や気体の状態方程式を理解する。 ・気体の内部エネルギー、気体の分子運動、熱力学第1法則、熱機関とその熱効率などについての理解を深める。

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	後期中間・学年末			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「ニューアチーブ物理」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。 ・2年次では「物理基礎」と「物理」を2単位ずつ。計4単位を履修する。			

【理科】

化学

履修学科	普通科（進学コース）
履修学年	第2学年（3学年で継続履修）
履修形態	選択
履修単位	2単位
教科書	「新編化学」（数研出版）
副教材	「リード Light ノート」（数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1編 物質の状態	・結晶の構造とその種類について理解する。 ・物質の状態とその変化について、分子間にはたらく力と関連付けて理解する。
	5	第1章 固体の構造	
	6	第2章 物質の状態変化	
前期 期末	7	第3章 気体	・気体の圧力、温度、体積について、ボイル・シャルルの法則を通して理解する。 ・溶解とそのしくみ、溶解度について理解する。 ・希薄溶液、コロイド溶液について理解する。
	8	第4章 溶液	
	9		
後期 中間	10	第2編 物質の変化	・化学反応において、反応の前後で物質の持つエネルギーの差が様々なエネルギーとして放出されることを理解する。 ・電気エネルギーによって起こる反応について理解する。
	11	第1章 化学反応とエネルギー	
		第2章 電池と電気分解	
後期 期末	12	第3章 化学反応の速さとしきみ	・化学反応には、速い反応と遅い反応があることを理解し、反応速度を定量的に扱う。 ・可逆反応と不可逆反応があることを理解し、化学平衡を反応速度の観点から考える。
	1		
	2 3	第4章 化学平衡	

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	年 4 回実施			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「リード Light ノート」は、各自予習復習に用い、考査前には 3 回以上やり遂げていること。			

【理科】

化学

履修学科	普通科（看護医療コース）
履修学年	第2学年（3学年で継続履修）
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新編化学」（数研出版）
副教材	「リード Light ノート」（数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	第1編 物質の状態	・結晶の構造とその種類について理解する。 ・物質の状態とその変化について、分子間にはたらく力と関連付けて理解する。 ・気体の圧力、温度、体積について、ボイル・シャルルの法則を通して理解する。
	5	第1章 固体の構造	
	6	第2章 物質の状態変化 第3章 気体	
前期期末	7	第4章 溶液	・溶解とそのしくみ、溶解度について理解する。 ・希薄溶液、コロイド溶液について理解する。 ・化学反応において、反応の前後で物質の持つエネルギーの差が様々なエネルギーとして放出されることを理解する。
	8	第2編 物質の変化	
	9	第1章 化学反応とエネルギー	
後期中間	10	第2章 電池と電気分解	・電気エネルギーによって起こる反応について理解する。 ・化学反応には、速い反応と遅い反応があることを理解し、反応速度を定量的に扱う。 ・可逆反応と不可逆反応があることを理解し、化学平衡を反応速度の観点から考える。
	11	第3章 化学反応の速さとしくみ 第4章 化学平衡	
後期期末	12	第3編 無機物質	・非金属元素の単体と化合物について、その製法、性質、反応を理解する。 ・典型元素の単体と化合物について、その製法、性質、反応を理解する。 ・遷移元素の単体と化合物について、その製法、性質、反応を理解する。
	1	第1章 非金属元素	
	2	第2章（Ⅰ）－典型元素－	
	3	第3章（Ⅱ）－遷移元素－	

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	年 4 回実施			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「リード Light ノート」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。			

【理科】 生物基礎

履修学科	普通科（未来創造・保育）
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	「新編 生物基礎」(数研出版)
副教材	「リード Light ノート生物基礎」 (数研出版)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	序章	- 多様な生物にも共通性があることを理解し、共通性が見られる理由についても理解する。 - 生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。 - 呼吸や光合成では ATP が合成されていることを理解する。 - 生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。
	5	第1章 生物の特徴	
	6	1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成	
前期 期末	7	第2章 遺伝子とそのはたらき	- DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 - DNA が複製されるしくみを理解する。 - 体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配されることを理解する。 - DNA の遺伝情報をもとに、タンパク質が合成される過程を理解する。
	8	1. 遺伝情報と DNA	
	9	2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現	
後期 中間	10	第3章 ヒトの体内環境の維持	- 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 - 自律神経系と内分泌系のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。 - 免疫と病気や治療法との関係について理解する。
	11	1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫のはたらき	
後期 期末	12	第4章 生物の多様性と生態系	- いろいろな植生とその特徴を理解する。 - 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因を理解する。 - 世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 - 生態系の中で、多様な生物がどのように関係して存在しているのかを理解する。 - 人間生活が生態系に与える影響と、生態系の保全の重要性を理解する。
	1	1. 植生と遷移	
	2	2. 植生の分布とバイオーム	
	3	3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	年 4 回実施			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「リード Light ノート生物基礎」は、各自予習復習に用い、考査前には 3 回以上やり遂げていること。			

【理科】 生物基礎

履修学科	普通科（進学・看護医療）
履修学年	第2学年（前期）
履修形態	必修(看護医療) 選択(進学)
履修単位	2単位
教科書	「新編 生物基礎」(数研出版)
副教材	「リード Light ノート生物基礎」(数研出版)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	序章 第 1 章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成	・多様な生物にも共通性があることを理解し、共通性が見られる理由についても理解する。 ・生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。 ・呼吸や光合成では ATP が合成されていることを理解する。 ・生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 ・DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 ・体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配されることを理解する。 ・DNA の遺伝情報を元に、タンパク質が合成される過程を理解する。
	5	第 2 章 遺伝子とそのはたらき	
	6	1. 遺伝情報と DNA 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現	
前 期 期 末	7	第 3 章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫のはたらき	・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。 ・免疫と病気や治療法との関係について理解する。 ・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因を理解する。 ・世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 ・生態系の中で、多様な生物がどのように関係して存在しているのかを理解する。 ・人間生活が生態系に与える影響と生態系保全の重要性を理解する。
	8	第 4 章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム	
	9	3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	
後 期		なし	

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	前期中間・前期末			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「リード Light ノート生物基礎」は、各自予習復習に使い、考査前には3回以上やり遂げていること。 ・2年次では「生物基礎」と「生物」を2単位ずつ、計4単位を履修する。			

【理科】

生物基礎

履修学科	美術・デザイン科2年
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新編 生物基礎」(数研出版)
副教材	「リード Light ノート生物基礎」 (数研出版)

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	序章	- 多様な生物にも共通性があることを理解し、共通性が見られる理由についても理解する。 - 生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。 - 呼吸や光合成では ATP が合成されていることを理解する。 - 生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。
	5	第1章 生物の特徴	
	6	1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成	
前期 期末	7	第2章 遺伝子とそのはたらき	- DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 - DNA が複製されるしくみを理解する。 - 体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配されることを理解する。 - DNA の遺伝情報をもとに、タンパク質が合成される過程を理解する。
	8	1. 遺伝情報と DNA	
	9	2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現	
後期 中間	10	第3章 ヒトの体内環境の維持	- 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 - 自律神経系と内分泌系のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。 - 免疫と病気や治療法との関係について理解する。
	11	1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫のはたらき	
後期 期末	12	第4章 生物の多様性と生態系	- いろいろな植生とその特徴を理解する。 - 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因を理解する。 - 世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 - 生態系の中で、多様な生物がどのように関係して存在しているのかを理解する。 - 人間生活が生態系に与える影響と、生態系の保全の重要性を理解する。
	1	1. 植生と遷移	
	2	2. 植生の分布とバイオーム	
	3	3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	年 4 回実施			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「リード Light ノート生物基礎」は、各自予習復習に用い、考査前には 3 回以上やり遂げていること。			

【理科】

生物

履修学科	普通科（進学・看護医療）
履修学年	第2学年（後期）
履修形態	必修(看護医療) 選択(進学)
履修単位	2単位
教科書	「生物」（実教出版）
副教材	「アクセスノート生物」（実教出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期		なし	
後期 中間	10 11	1章 生物の進化	・生命の誕生に関する仮説について理解している。 ・歴史的な進化説と現在の進化説の基本的な発想の視点を踏まえ、底流にある基本概念を把握している。 ・地質時代における生物の変遷を、化石にもとに考察し、環境の変化との関連を探究できる。また、霊長類現生種との形態比較から人類の進化を考察し、表現することができる。 ・現生種についての比較形態、比較発生、生物分布などの資料から進化の証拠を理解し、進化説の理解を深めようとする。
		1節 生命の起源と細胞の進化	
		2節 遺伝子の変化と進化のしくみ	
		3節 生物の系統と進化	
学年 末	12 1 2 3	2章 生命現象と物質	・タンパク質の基本的な構造・性質についての学習を手がかりとして、酵素作用や免疫現象・筋収縮などが、タンパク質の特異性や多様性に基づいて展開されていることを理解している。 ・エネルギーの利用に際して、ATPがエネルギーの通貨として働いていることを理解している。 ・生物体にみられる様々な働きが、酵素による触媒作用をはじめとした、タンパク質の多様性および特異性に基づいていることを科学的に考察できる。 ・分子レベルでの生物現象の把握を主な目的として、タンパク質や核酸などの有機化合物の多様な働きが生物現象の基本になっていることを理解しようとする。
		1節 細胞と分子	
		2節 生命現象とタンパク質	
		3節 代謝	

評価の割合	知識・技能（考査 90% 平常 10%） 思考力・判断力・表現力（考査 60% 平常 40%） 主体的に学びに向かう態度（平常 100%）			
考査の実施	後期中間・学年末			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「アクセスノート生物」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。 ・3年次では「生物」を4単位、計6単位を履修する。			

【保健体育科】

体 育

履修学科	普通科・商業科・美術デザイン科
履修学年	第2学年(男子)
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	アクティブスポーツ 2022

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	体づくり運動	・2年次の「授業の流れ・諸注意について」確認する。
	5	集団行動	・授業展開を伝えるとともに、授業で目標としている評価のポイントを理解させる。
	6	スポーツテスト	・集団の約束や決まりを守り、機敏的確に行動することを身に付ける。
前期 期末	7	陸上競技(走・跳・投)	・体力・運動能力の現状を確かめ、現在の自分の体力を知り、今後の授業に活かす。
	8	ソフトボール	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高め、試合が展開できるようにする。
	9	バレーボール	・個々に応じた目標設定をする。個人技能をもとに、集団技能を習得し、ゲームに活かす。(パス、レシーブ、アタック、サーブの連携技術習得)
後期 中間	10	サッカー	・状況に応じたボール操作と空間を作るなどの動きなどの基本技術を身に付ける。
	11	バスケットボール	・パスやドリブル・ボールコントロールの技術を応用し、味方が作り出した空間に走りこんだシュート動作を身に付ける。
学年 末	12	接触プレーの多い球技ゲームを通して、チームの協調性とルールの順守の大切さを学ばせ、協力し合いながら、安全に試合の攻防が展開できるようにさせる。	・接触プレーの多い球技ゲームを通して、チームの協調性とルールの順守の大切さを学ばせ、協力し合いながら、安全に試合の攻防が展開できるようにさせる。
	1	バスケットボール	・接触プレーの多い球技ゲームを通して、チームの協調性とルールの順守の大切さを学ばせ、協力し合いながら、安全に試合の攻防が展開できるようにさせる。
	2 3	バドミントン	・ラケット操作を身に付け、シャトルcockの特性を理解し、基本技能を身に付ける。

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・実技試験の割合は以下の通り。 知・技（実技試験9割、実技試験外1割） 思・判・表（実技試験8割、実技試験外2割） 主体的（実技試験外10割）			
考査の実施	実施せず全て実技試験による			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 実技試験	○	○	
	2 授業態度			○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	運動の必要性を認識し、自らを鍛えるという習慣を身に付け、体力の向上に努力する。年間を通して集団の一員としての在り方を見つめ、進んで取り組む姿勢や改善する能力を養う。また、健康を常に意識しながらスポーツを生涯の友として取り組む姿勢を養う。			

【保健体育科】

体 育

履修学科	普通科・商業科・美術デザイン科
履修学年	第2学年(女子)
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	アクティブスポーツ 2022

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	体づくり運動	・2年次の「授業の流れ・諸注意について」確認する。 ・授業展開を伝えるとともに、授業で目標としている評価のポイントを理解させる。 ・集団の約束や決まりを守り、機敏的確に行動することを身に付ける。 ・体力・運動能力の現状を確かめ、現在の自分の体力を知り、今後の授業に活かす。
	5	集団行動	
	6	スポーツテスト	
前 期 期 末	7	陸上競技(走・跳・投)	・個々に応じた目標設定をする。個人技能をもとに、集団技能を習得し、ゲームに活かす。(パス、レシーブ、アタック、サーブの連携技術習得) ・社交型ダンスを通して、ダンスの由来や背景に目を向け、文化として理解する。
	8	バレーボール	
	9	ダンス	
後 期 中 間	10	バドミントン	・ラケット操作を身に付け、シャトルcockの特性を理解し、基本技能を身に付ける。 ・リズム型ダンスを通し、人間の活力健康と直結した動きからリズムの取り方などを学ぶ。
	11	ダンス	
学 年 末	12	バスケットボール	・パスやドリブル・ボールコントロールの技術を応用し、味方が作り出した空間に走りこんだシュート動作を身に付ける。 ・接触プレーの多い球技ゲームを通して、チームの協調性とルールの順守の大切さを学ばせ、協力し合いながら、安全に試合の攻防が展開できるようにさせる。 ・創作型ダンスを通し「創る」「表現する」体験が心を豊かに、そして個性を育てるテーマを設定して作品を発表する。
	1	ダンス	
	2		
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・実技試験の割合は以下の通り。 知・技（実技試験 9 割、実技試験外 1 割） 思・判・表（実技試験 8 割、実技試験外 2 割） 主体的（実技試験外 10 割）			
考査の実施	実施せず全て実技試験による			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 実技試験	○	○	
	2 授業態度			○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	運動の必要性を認識し、自らを鍛えるという習慣を身に付け、体力の向上に努力する。年間を通して集団の一員としての在り方を見つめ、進んで取り組む姿勢や改善する能力を養う。また、健康を常に意識しながらスポーツを生涯の友として取り組む姿勢を養う。			

【保健体育科】

保 健

履修学科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	1単位
教科書	高等学校 保健体育 Textbook, Activity

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	第2章 安全な社会生活 第2節 応急手当	・ 応急手当の重要性を知り，傷病者の観察や応急手当の正しい手順についての理解を深める。
	5		・ 心肺蘇生法について，正しい手法を理解し，身につけることができるようにする。
	6	第4章 健康を支える環境づくり 第1節 環境・食品と健康	・ 近年の人間活動による汚染の急増，地球環境問題などについての理解を深める。
前期期末	7	第4章 健康を支える環境づくり	・ 食品による健康被害の種類を知り，このような被害を防止するために行われている施策についての理解を深める。
	8	第2節 保健・医療制度と機関	・ わが国で行われている，保健行政について具体的な施策を知るとともに，医療制度の仕組みやサービスについても理解を深める。
	9		・ 医薬品の有効性と危険性の両面について知り，医薬品は正しく使用する必要があることについての理解を深める。
後期中間	10	第3章 生涯を通じる健康 第1節 生涯の各段階における健康	・ 心身ともに大人への過渡期である思春期に起こる心の成長について，男女の意識の違いなども含めて理解を深める。
	11		・ 受精のメカニズムを知り，妊娠から出産までの過程と，胎児と母体の変化についての理解を深める。
学年末	12	第3章 生涯を通じる健康 第2節 労働と健康	・ 心身ともに大人への過渡期である思春期に起こる心の成長について，男女の意識の違いなども含めて理解を深める。
	1		・ 労働と健康のかかわりについて理解を深める。また，職業の選択に当たって考慮すべきことについて考えることができるようにする。
	2		・ 労働と健康のかかわりについて理解を深める。また，職業の選択に当たって考慮すべきことについて考えることができるようにする。
	3		・ 労働者の健康・安全をまもるために，わが国で行われている施策について知るとともに，自らがとるべき対策についても理解を深める。

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期期末・学年末考査			
評価項目	主な評価内容	評 価 の 観 点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 課題提出	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれぞれを支える社会環境づくりが重要留意事項であるということから、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。			

【芸術科】

音楽総合

履 修 学 科	普通科
履 修 学 年	第2学年（保育コース）
履 修 形 態	必履修
履 修 単 位	3単位
教 科 書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・「音楽総合」学習のためのガイダンス、アンケート	・アンケート実施により、昨年度の進捗確認
	5	・ピアノ実技	・バイエルの練習やリズムを理解することで表現力を上げながら保育検定にも対応するため、基礎的な練習をする（研究ノート、プリント等）
	6	・童謡の練習（歌唱及び弾き歌い） ・歌唱 ・楽典（基礎の復習）	・歌唱や弾き歌いを通して自信やレパートリーを増やす ・演奏等に必要な楽典の基礎を学ぶ
前期 期末	7	・ピアノ実技およびリズム練習 テスト	・課題の確認
	8	・楽典①（音程）	・演奏や解釈等に必要な楽典を学ぶ
	9	・楽典小テスト ・童謡（歌唱・弾き歌い）テスト	※保育検定に関連した課題
後期 中間	10	・ピアノ実技	・課題の確認
	11	・器楽（ギターなど） ・ミュージカル映画鑑賞（感想文提出） ・楽典（音階、音程②、調性、等） ・歌唱（沖縄音楽等）	・ギターなどピアノ以外の楽器の経験をする ・ミュージカルに触れ、制作の舞台裏や表現力等を学ぶ ・演奏や解釈等に必要な楽典を学ぶ ・琉球音階を学び、演奏する
学年 末	12	・ピアノ実技 ・（ギター実技）	・課題の確認
	1	・鑑賞	・楽典の確認
	2	・楽典（和音、コード） ・楽典小テスト	・三和音とコードの構造および関連性を学ぶ
	3	・校歌の合唱練習	・三部合唱

評価の割合	実技テストや課題評価、小テストと平常点を総合的に評価する。			
考査の実施	なし			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 実技課題	○	○	○
	4 課題提出等	○	○	○
留意事項				

【芸術】

音楽Ⅰ

履修学科	商業科
履修学年	第2学年
履修形態	選択必修
履修単位	2単位
教科書	教育芸術社 MOUSA 1

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・「音楽Ⅰ」学習のためのガイダンス、アンケート	・これまでの音楽歴や音楽に関する興味関心分野などを調査する ・発声を学び伸びやかに歌う。外国語の歌に触れ、日本語の歌との違いを感じ取る ・鍵盤に慣れる ・ミュージカルに触れ、製作の舞台裏や表現力等を学ぶ
	5	・校歌を中心とした「歌唱」の練習 (日本の歌・世界の歌)	
	6	・ピアノ（鍵盤楽器）の基礎学習（練習、テスト） ・「歌唱」実技テスト ・ミュージカル映画鑑賞（感想文提出）	
前期 期末	7	・ピアノ練習および実技テスト	・鍵盤に慣れるとともに音階や曲の形式を理解する。 ・読譜の基本を確認する ・西洋音楽の歴史を通して作曲家や作品に触れる ・日本の伝統芸能の成り立ちなどを学ぶ
	8	・楽典の学習	
	9	・西洋音楽の歴史（バロック・古典派） ・日本の伝統芸能について（雅楽・能楽）	
後期 中間	10	・クラシックギターの基礎学習	・クラシックギターの基礎を学び、メロディーおよび簡易なコードが弾けるようにする ・ドイツ語に触れ、文学作品との関連を知る ・リズムを理解し、他の演奏を聴き合いながら表現の違いを感じ取る
	11	・ドイツリートに触れる	
	12	・リズムアンサンブル ・発表会に向けて（選曲、練習、発表）	
後期 期末	1	・発表会に向けて（選曲、練習、発表） (連弾アンサンブルなど)	・発表を経験し、マナー等を学び、他の演奏を聴き合うことで表現の違いなどを感じ取る ・ドキュメンタリー的な映画を鑑賞することにより、音楽について幅広く考える ・まとめのレポート
	2	・ミュージックに関する映画鑑賞	
	3	・一年間のまとめ	

評価の割合	実技テストや課題評価、小テストと平常点を総合的に評価する。			
考査の実施	なし			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 出欠状況			○
	3 実技課題	○	○	○
	4 提出課題等	○	○	○
留意事項	実技の取り組み状況が評価に大きくかわります。			

【芸術科】

美術 I

履 修 学 科	商業科
履 修 学 年	第2学年
履 修 形 態	選択
履 修 単 位	2単位
教 科 書	

学期・月		項 目	ねらい・教材等
前期 中間	4	美術の学習のガイダンス	・色鉛筆、絵の具などの画材に触れ、絵画、デザインにおいて美術の大切な要素となる色の特徴や色の選択、混色、重色を学習する。 ・複数の図法を用い、スケッチを通して描くことに慣れながら、形や質感をとらえる力を身につける。
	5	＜色彩と形＞ 色の特徴	
	6	形の特徴	
前期 期末	7	＜絵画制作＞	・身近な風景をスケッチし、構図、線遠近法を学習する。 ・絵の具の表現方法を学び、風景画や自画像を制作する。
	8	風景画を描く	
	9		
後期 中間	10	＜クラフト＞	・自然素材である木でデザインを考え制作する。
	11	ウッドクラフト	
	12		
後期 期末	1	＜デザイン＞ 日本美術	・日本美術の歴史や伝統工芸を学習し、美術文化への鑑賞する力を養う。 ・造形的なよさや美しさ、目的や条件などを基に美的感覚をはたらかせながら、生活と密着する現代のデザイン事情について学習する。
	2	暮らしの中のデザイン	
	3		

評価の割合	課題評価と平常点を総合的に評価する。			
考査の実施	なし			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
	5 考査			
留意事項				

【芸術科】 書道 I

履修学科	商業科
履修学年	第2学年
履修形態	選択
履修単位	2単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	○書に親しむ	・篆書の学習を通して、落款が作品の中で重要であることに関心を深め、字典等を利用し工夫と表現が出来る。また、書作品の落款と自作、他作の印を比較し、意見交換できる。
	5	○篆刻の学習	
	6	篆書体で自分の氏名を刻る	
前期 期末	7	○漢字の書 漢字の成立と変遷 用具・用材・姿勢・執筆法	・古典の臨書や鑑賞によって、書体や書風、構成などの違いを知ることができるようにする文房四宝を知り用具・用材による表現の違いを知る。 ・楷書や行書の書を通して、漢字の書の良さや美しさを感じ取り、基礎的な技能を身につけ書が生活の中で果たしている役割、書の文化や伝統などを理解する。
	8	○楷書	
	9	九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑	
後期 中間	10	○漢字仮名交じりの書 漢字と仮名の調和 用具・用材による表現の変化	・漢字仮名交じりの書を通して、書の良さや美しさを感じ取り、実用的な表現や芸術的な表現の基礎的な技能を表現と鑑賞の関連を図りながら味わう。
	11	紙面構成のバリエーション 創作	
	12	画仙紙での作品制作	
後期 期末	1	○年賀状の学習	・紙や墨、筆の種類によって、表現に変化をつけられることを理解する。また、用具・用材の組み合わせによっても、表現の幅が広がることを理解する。 ・自分の表現意図に合った効果的な表現方法を模索する。
	2	○漢字の創作 画仙紙での作品制作	
	3	○漢字の書 行書 ○まとめ	

評価の割合	課題評価と平常点を総合的に評価する。			
考査の実施	なし			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
	5 考査			
留意事項				

【外国語科】

英語

コミュニケーションⅡ

履修学科	普通科(未来・保育) 商業科 (情ビ)
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	All aboard! English CommunicationⅡ (東京書籍)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	Lesson 1 A Colorful Island	教材：「英単語ターゲット 1200」（旺文社） 「書き込み式ノート英単語ターゲット 1200 Workbook 2」 「All aboard! English CommunicationⅡ ワークブック」 ①イタリアのブラーノ島の説明を読み取り、島の文化や魅力について理解する。関係代名詞の what や願望の表現に関する用法を理解する。 ②ビートルズの歴史や魅力を読み取り、世界的なミュージシャンの見聞を広げる。比較級や最上級を使った比較表現の用法を理解する。
	5		
	6		
前期期末	7	Lesson 2 With the Beatles	Lesson 3 Wild Men ①世界各地の仮装を使った祭や行事の魅力を読み取る。仮主語の it の用法について理解する。
	8		
	9		
後期中間	10	Lesson 4 Little Hero	①ハチドリの特徴や物語を読み取り、想像力を働かせて物語を完成させる。間接疑問文の用法を理解する。
	11		
学年末	12	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	①歌舞伎におけるメイクと表現の関連性を読み取り、日本の伝統について理解する。 to 不定詞を含む表現を理解し、文を作ることができる。
	1		
	2		
	3		

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・後期中間考查・学年末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項	・英語4技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【外国語科】

英語

コミュニケーション II

履修学科	普通科（進学、看護）、商業科（進ラ）、美術・デザイン科
履修学年	第 2 学年
履修形態	必修
履修単位	3 単位
教科書	「APPLAUSE II」（開隆堂）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	高校 1 年の復習	教材：「英単語ターゲット 1200」商業科（進ラ）、美・デ科 「書き込み式ノート 英単語ターゲット 1200 Workbook2」 「System 英単語 Basic」普通科（進学、看護） 「APPLAUSE English Communication I Workbook」
	5	Lesson 1 What is Attractive in Okinawa?	①沖縄の伝統や地理的、文化的な魅力について理解する。 S+V / S+V+O/ S+V+C (if/分詞) の用法を理解する。
	6	Lesson 2 What have the Japanese People Been Eating?	②日本の食文化の歴史や魅力、洋食と日本の関係について理解する。 S+V+O+O / S+V+O+O(=if 節) / S+V+O+O(=that 節) の意味と用法を理解する。
前期 期末	7 8 9	Lesson 3 High School Students' Volunteer Activities	①ボランティア活動に取り組んでいる社会人や高校生の活動の内容を読み取り、活動の意義を理解する。 現在完了形、現在完了進行形、過去完了形、過去完了進行形、未来進行形についての用法を理解する。
後期 中間	10 11 12	Lesson 4 Happy Time in Finland	①フィンランドの地理的特徴や文化を読み取り、異文化理解を深める。 不定詞、形式主語 it、S find it ～ that 節、S think it ～ to 不定詞の用法を理解する。
後期 期末	1 2 3	Lesson 5 The Relay of Ahmed's Life	①モハメド・アーメッド君についての出来事を通して、紛争地域の劣悪な現状における人間愛を感じ取る。 推量の助動詞、助動詞+have+過去分詞、would like to～、would rather than～(than) の用法を理解する。

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・後期中間考查・学年末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項	・英語4技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【外国語科】

論理・表現 I

履修学科	普通科（進学、看護）、美術・デザイン科
履修学年	第2 学年
履修形態	必修
履修単位	2 単位
教 科 書	「APPLAUSE ENGLISH LOGIC & EXPRESSION」 (開隆堂)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	Lesson 1 My Hero	教材： 「APPLAUSE ENGLISH LOGIC & EXPRESSION Workbook」 ①現在形 過去形 進行形を使って自分や周りの人などを表現できる。あこがれの人について、わかりやすくて的確に紹介しようとする。 ②未来を表す表現を使って、これから起こることなどを表現できる。外国からきたお客さんと過ごす週末の予定について、積極的に伝えようとする ③さまざまな助動詞を使って、自分ができることなどを表現できる。富士登山の際の注意事項について、積極的に発表しようとする。 ④現在完了形、現在完了進行形、過去完了形の用法が理解できる。さまざまな完了形を使って、自分の経験などを表現できる。
	5	Lesson 2 Weather Forecast for Tomorrow?	
	6	Lesson 3 Tips on Visiting a Japanese Temple	
		Lesson 4 The Key to Learn Kanji	
前期 期末	7	Lesson 5 Home-Made Bread	⑤さまざまな形の受動態を使って、身の回りのものなどを表現できる。好きな日本の食べ物について、積極的に紹介しようとする。⑥ギネスブックに載せるための計画について、積極的に紹介しようとする。比較級と最上級の用法が理解できる。 ⑦さまざまな比較表現を使って身の回りのものなどを表現できる。食品ロスを減らす方法についてグラフの情報と合わせて発表しようとする。 ⑧動名詞や to 不定詞を使って、身の回りのものや将来の計画などを表現できる。災害への備えや発生時に必要なことについて、的確に紹介しようとする。
	8	Lesson 6 Guinness World Records	
	9	Lesson 7 Japanese Bentos Are Cool!	
		Lesson 8 Ready for Disasters	
後期 中間	10	Lesson 9 Useful Ads on the Internet	⑨to 不定詞を使って、活動の目的や事物の使用目的などを表現できる。留学先に持っていきたいおみやげについて、積極的に紹介しようとする。 ⑩現在分詞や過去分詞を使って、人や身の回りのものなどを詳しく表現できる。身の回りで起こったことについて、順序立てて説明しようとする。 ⑪関係代名詞を使って、人や身の回りのものを詳しく表現できる。オリジナル製品のアイディアについて、積極的に発表しようとする。 ⑫関係副詞を使って、場所や時などを詳しく表現できる。おすすめの観光地について、その魅力が伝わるように説明しようとする。
	11	Lesson 10 Who's the Girl Walking with You?	
	12	Lesson 11 Going on a Factory Tour!	
		Lesson 12 A Sightseeing Spot to Recommend	
後期 期末	1	Lesson 13 If I were good at Cooking	⑬仮定法を使って、願望や助言などを表現できる。友だちから相談を受けた悩みについて、的確に助言しようとする。 ⑭接続詞を使って、理由などを表現できる。春休みに行きたい場所について、理由と合わせて発表しようとする。
	2	Lesson 14 The Best Place for the Holiday	
	3		

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・後期中間考查・学年末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項	・英語4技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【外国語科】

英語総合 A

履修学科	普通科（未来－選択）
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	プレップイングリッシュ

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	※日本語と英語の違い ① Lesson 1～4 「これ」と「あれ」について	「プレップイングリッシュ」 ※語順・冠詞と名詞・名詞の数変化 ① this と that・主格と目的格・所有格・ 形容詞と副詞 ② am / are / is ・ be 動詞の疑問文と否定文・前置詞・ There is / There are
	5	誰が誰を手伝うの？他	
	6	② Lesson 5～8 be 動詞は変身大好き！ be 動詞はしゃしゃり出る！	
前期 期末	7	③ Lesson 9～12 一般動詞＝動詞—be 動詞他	③ 一般動詞の肯定文・疑問文・否定文 （1人称・2人称・3人称・複数） ④ 命令文・be 動詞の過去形 ⑤ 一般動詞の過去形（規則動詞・不規則動詞）・否定文・疑問文
	8	④ Lesson 13～16 いきなり動詞で始まるの？	
	9	be 動詞の過去形は was と were ! ⑤ Lesson 17～20 -(e)d を合体させると過去形	
後期 中間	10	⑥ Lesson 21～24 疑問詞の出番ですよ！ 進行形、忘れちゃいけない be 動詞。	⑥ wh 疑問文・進行形の作り方 ⑦ 助動詞（will・be going to・can・ must・may）・否定文・疑問文 ⑧ be able to と have to ・Will you～？ / Shall I ～？/ Shall we ～？・助動 詞・疑問詞
	11	⑦ Lesson 25～28 Will を使って未来を語ろう！ ⑧ Lesson 29～32 僕たち、ピンチヒッターです。	
後期 期末	12	⑨ Lesson 33～36 点（過去形）と線（現在完了形）	⑨ 現在完了の意味と形・3つの用法 ⑩ 受動態の意味と形・疑問文と否定文 ⑪ 関係代名詞（主格・所有格・目的格） について
	1	⑩ Lesson 37～40 ここでも活躍、過去分詞。	
	2	⑪ Lesson 41～44 関係代名詞は接着剤？！	

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・後期中間考查・学年末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別 評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項	・英語4技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【外国語科】

英語総合 A

履修学科	普通科（保育－進学）
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	プレップイングリッシュ

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	※日本語と英語の違い ① Lesson 1～4 「これ」と「あれ」について	「プレップイングリッシュ」 ※語順・冠詞と名詞・名詞の数変化 ① this と that・主格と目的格・所有格・ 形容詞と副詞 ② am / are / is ・ be 動詞の疑問文と否定文・前置詞・ There is / There are
	5	誰が誰を手伝うの？他	
	6	② Lesson 5～8 be 動詞は変身大好き！ be 動詞はしゃしゃり出る！	
前期 期末	7	③ Lesson 9～12 一般動詞＝動詞—be 動詞他	③ 一般動詞の肯定文・疑問文・否定文 （1人称・2人称・3人称・複数） ④ 命令文・be 動詞の過去形 ⑤ 一般動詞の過去形（規則動詞・不規則動詞）・否定文・疑問文
	8	④ Lesson 13～16 いきなり動詞で始まるの？	
	9	be 動詞の過去形は was と were ! ⑤ Lesson 17～20 -(e)d を合体させると過去形	
後期 中間	10	⑥ Lesson 21～24 疑問詞の出番ですよ！ 進行形、忘れちゃいけない be 動詞。	⑥ wh 疑問文・進行形の作り方 ⑦ 助動詞（will・be going to・can・ must・may）・否定文・疑問文 ⑧ be able to と have to ・Will you～？ / Shall I ～？/ Shall we ～？・助動 詞・疑問詞
	11	⑦ Lesson 25～28 Will を使って未来を語ろう！ ⑧ Lesson 29～32 僕たち、ピンチヒッターです。	
後期 期末	12	⑨ Lesson 33～36 点（過去形）と線（現在完了形）	⑨ 現在完了の意味と形・3つの用法 ⑩ 受動態の意味と形・疑問文と否定文 ⑪ 関係代名詞（主格・所有格・目的格） について
	1	⑩ Lesson 37～40 ここでも活躍、過去分詞。	
	2	⑪ Lesson 41～44 関係代名詞は接着剤？！	

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・後期中間考查・学年末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別 評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項	・英語4技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【普通科】

ビジネス・コミュニケーション

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修形態	選択（未来）
履修単位	3単位（未来）
教科書	ビジネス・コミュニケーション（実教出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1章 企業の組織と人間関係	- 企業の組織と意思決定の流れ、組織の一員として働く場合の心がまえを身につけ、人的ネットワークを構築することの重要性を学びます。 - 一つひとつの動作を丁寧に行うことで、相手への敬意を表すことができ、誠実で礼儀正しい印象を相手に与えられることを学びます。
	5	第2章 応対に関するビジネスマナー	
	6		
前期 期末	7	第3章 交際に関するビジネスマナー	- ビジネスにおける交際や食事のマナーの重要性を学びます。 - 接客に関する知識と心がまえについて学びます。 - コミュニケーションの役割や種類、場面や心得、思考方法などについて学びます。
	8	第4章 接客に関するビジネスマナー	
	9	第5章 コミュニケーションの役割と思考方法	
後期 中間	10	第6章 ビジネスにおけるコミュニケーション	- ディスカッションやプレゼンテーション、交渉、苦情対応、商品説明、ソーシャルメディアでの情報発信などの場面における技法について学習します。 - 会議の進め方やビジネス文書の作成方法などを学びます。
	11	第7章 コミュニケーションスキルとビジネススキル	
後期 期末	12	第8章 企業活動のグローバル化	- グローバル化の進展によって、世界がどう変化しているのかを学びます。 - 海外出張やビジネス会議、交渉での英語の会話を学びます。 - 英文レターや電子メールの基本構造と簡潔な表現を学びます。 - ビジネスにおけるプレゼンテーションについて学びます。
		第9章 ビジネスの会話	
	1	第10章 ビジネス文書と電子メール	
	2	第11章 ビジネスにおけるプレゼンテーション	
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 ・ 前期期末 ・ 後期中間 ・ 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	・ビジネスの世界では、人と人とのつながりが大切です。社内・社外の人と良好な信頼関係を築き、コミュニケーションを図ることで、ビジネスを円滑に進めることができます。ビジネスマナーやコミュニケーションについて、しっかり学習しましょう。			

【家庭科】

保育基礎

履修学科	普通科・保育コース
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	教育図書 保育基礎

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	1 子ども保育	子どもの発達の過程を知る
	5	2 子どもの発達の特性①	乳幼児の身体発育と生理的特徴を理解する
	6	3 造形の技法 切る・貼る・描く・折る・絵画技術	造形活動に必要な技術の基礎知識を身に付ける
前 期 期 末	7	4 子どもの発達の特性②	子どもの心の発達を知り、子どもと触れ合う具体的な方法を身に付ける
	8	5 保育検定に向けて 言語・看護・造形	紙芝居の扱い、子どものお世話の仕方、造形表現を身に付ける
	9		
後 期 中 間	10	6 子どもの健康と生活	子どもの衣・食について理解する
	11		子どもが身に付けるべき基本的生活習慣の重要性について理解する
	12	7 描画・造形材料の技法	描画素材を扱い、道具や材料の特徴を知り扱い方を学ぶ
後 期 期 末	1	8 子どもの文化	児童文化財をしり、子どもにとっての遊びの重要性を理解する
	2	9 保育教材制作	現場で使える保育教材の制作の基礎を身に付ける
	3		

考査の実施	前期期末・学年末			
観点別の評価	主な評価内容	評 価 の 観 点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
	1 定期考査	○	○	
	2 授業への取り組み (実習など)	○	○	○
	3 作品		○	○
留意事項				

【教養】 未来創造基礎

履修学科	普通科（未来創造コース）
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	未来を考える。 ・将来の夢	・講話や体験学習を通じて、自分の将来について考える。 ・パソコンの基本操作を身につける。 ・適切な論理を使った文章を書けるようになる。 ・文章を論理的に読んで自分の意見を持つ。 ・相手意識や目的意識を持って話せるようになる。
	5	仕事に必要な知識や技能を身につける。	
	6	・パソコンの基本操作（ワープロソフト使用） ・「書く」「読む」「聞く・話す」の力を伸ばす。	
前期 期末	7	仕事に必要な知識や技能を身につける。	・パソコンの基本操作を身につける。 ・適切な論理を使った文章を書けるようになる。 ・文章を論理的に読んで自分の意見を持つ。 ・相手意識や目的意識を持って話せるようになる。
	8	・パソコンの基本操作（ワープロソフト使用）	
	9	・「書く」「読む」「聞く・話す」の力を伸ばす。	
後期 中間	10	未来を考える。 ・様々な職業（職種や職業について）知る。	・講話や体験学習を通じて、進路や応用科目の選択に活かす。 ・電卓の基本的な使い方と計算の基礎を学ぶ。 ・適切な論理を使った文章を書けるようになる。 ・文章を論理的に読んで自分の意見を持つ。 ・相手意識や目的意識を持って話せるようになる。 ・パソコンで実際に文書を作成する。
	11	仕事に必要な知識や技能を身につける。 ・電卓の基礎と計算	
	12	・「書く」「読む」「聞く・話す」の力を伸ばす。 ・パソコンによる文書作成	
後期 期末	1	未来を考える。 ・様々な職業（職種や職業について）知る。	・電卓の基本的な使い方と計算の基礎を学ぶ。 ・適切な論理を使った文章を書けるようになる。 ・文章を論理的に読んで自分の意見を持つ。 ・相手意識や目的意識を持って話せるようになる。 ・パソコンで実際に文書を作成する。
	2	仕事に必要な知識や技能を身につける。 ・電卓の基礎と計算。	
	3	・「書く」「読む」「聞く・話す」の力を伸ばす。 ・パソコンによる文書作成	

評価の割合	各観点を平均する。			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度		○	
	2 出席状況			○
	3 課題提出		○	○
	3 レポート・小テスト	○	○	
留意事項				

【教養】

未来創造応用 B

(CG デザイン領域)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第2学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2単位
教 科 書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・オリエンテーション	・CG・デザインの概念を理解する。 ・CG・デザインの仕事の広がりを理解する。 ・PCの基本操作を理解する。
	5	・CG・デザインとは何か	
	6	・職業理解 ・PC、デザインツールの基本操作 ・デザインツールを知る ・まとめ・レポート	
前期 期末	7	・デザイン概論 ・CG・デザインの作品鑑賞 ・Illustratorを使った制作実習	・デザインの基本的なルールを学習する。 ・実際にデザイナーが使用するツールを使ってデザインプロセスを体験する。 ・3DCG ソフトを使ったモデリングを体験する。
	8	・3DCG 制作体験	
	9	・職業理解 ・まとめ・レポート	
後期 中間	10	・CG・デザインの作品鑑賞 ・PhotoShop の使い方 ・PhotoShop、Illustrator を使った制作実習	・実際にデザイナーが使用するツールを使ってデザインプロセスを体験する。 ・アニメーションの基本原理を理解し、どのように使われているかを学ぶ。
	11	・アニメーションについて	
	12	・職業理解	
後期 期末	1	・アニメーション制作実習 ・CG・デザインとテクノロジー	・実際にアニメーション制作を体験する。 ・CG・デザインの分野がテクノロジーと結びつき、どのような表現ができるかについて考える。
	2	・職業理解	
	3	・まとめ・レポート	

評価の割合	各観点を平均する			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度		○	○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
留意事項				

【家庭科】

食物探求

履修学科	普通科（未来創造コース）
履修学年	第2学年
履修形態	選択
履修単位	2単位
教科書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	オリエンテーション	「食」に関する学びやそこからつながる職業について学習する授業であることを理解する。 食物に含まれる栄養素の種類と働きについての知識を習得する。
	5	食に関する仕事に必要な知識	
	6	栄養学とは	
前 期 期 末	7	食に関する仕事・資格	「食」に関する仕事や資格にはどのようなものがあるのかを理解する。 調理をする際に使用する材料や道具、下準備などの基本的なことを理解し、実習に取り組む。
	8	食に関する職業理解	
	9	食品衛生・実習	
後 期 中 間	10	地元の食についての学び （フードマイレージ・郷土料理・農業）	日本をはじめ、世界の食べ物の歴史と文化を知る。 乳幼児から高齢期まで、各ライフステージ毎の体の状態を理解し、その時に必要な栄養の特徴、食生活上の留意点などを知り、実習などを通して理解を深める。 具体的な職業について理解を深める。
	11	アレルギー対応食品	
	12	食に関わる仕事（サービス・店舗）	
後 期 期 末	1	調理の技術（調理実習）	調理の技術を習得する。 食品販売の際の陳列や接客の仕方を学び、実践・体験をする。
	2	食事環境の整備（コーディネート・花）	
	3		

評価の割合	知識・技能（考査70％、平常30％）			
	思考力・判断力・表現力（考査70％、平常30％）			
	主体的に学びに向かう態度（平常100％）			
考査の実施	授業の中で実施（年3回）			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学びに向かう態度
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	

【教養】 未来創造応用 A (ビジネス領域)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・ 社会人としての心構え ・ ビジネスマナー	・ 社会人として活躍するための心がけを学ぶ ・ マナーの実践するために必要な知識を得る
	5		
	6		
前期 期末	7	・ ビジネスキル ・ 自分らしい働き方	・ 仕事で良い成果を上げるための具体的なスキルを学ぶ ・ 世の中にどんな仕事があるのか調べる ・ 他人から見た自分を知り、自分の可能性に気付く
	8		
	9		
後期 中間	10	・ ビジネス関連知識 ・ 自分の性格	・ ビジネスの場で活かせる企業に関する知識を学ぶ ・ 自分の性格を分析し、客観的にどんな仕事ができるのか、似合うのか考える。
	11		
	12		
後期 期末	1	・ 就職活動	・ 社会人になるための第一歩である就職活動について考える
	2		
	3		

評価の割合	各観点を平均する。			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度		○	
	2 出席状況			○
	3 課題提出		○	○
	3 レポート・小テスト	○	○	
留意事項				

【教養】

未来創造応用C

(IT 情報)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第2学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2単位
教 科 書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・メモ帳でホームページを作ってみよう ～HTMLの基礎～	・プログラミングの入門として HTML の基礎を学習し、オリジナルのホームページを作成することにより、プログラマー、 WEB デザイナー、情報の発信におけるモラルやマナーを身に付ける。
	5		
	6		
前期 期末	7	・エクセルのマクロを使って簡単なゲームを作ってみよう ～VBA プログラミングの基礎～	・身近な表計算ソフト「エクセル」を使って基本的なプログラミングを学習し、アルゴリズムなど論理的な思考を身に付けるとともに、社会人として仕事におけるエクセルの効率的な使い方、ゲームクリエイターやアプリケーション開発について体験する。
	8		
	9		
後期 中間	10	・ HTML を使って商品紹介ホームページを作成しよう ～情報発信の基礎～	・前期で作成したアプリケーションを紹介するホームページを作成することにより、商品分析、広告宣伝業務について触れ、情報を発信する際の工夫の仕方を学習する。
	11		
	12		
後期 期末	1	・パワーポイントを使って気になるニュースを解説しよう ～プレゼンテーションの基礎～	・プレゼンテーションソフト「パワーポイント」を利用し、情報をいかに相手にわかりやすく伝えるか、パワーポイントの活用法を学習し、それを発表することでプレゼン能力の向上を図る。
	2		
	3		

評価の割合	レポート点 50% 実技点 40% 平常点 10%			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
平常点の評価 (10点)	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断 表現	主体的に取り組む 態度
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	
留意事項	4 レポート・小テスト	○	○	
	プログラミングは基本的にアルファベットを使用します。			

【教養】

未来創造応用 A

(公務員領域)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・オリエンテーション（授業内容・職業観等）	・警察官と消防士の仕事内容や組織について理解する。
	5	・公務員とは何か？	・警察官と消防士の仕事内容や組織について整理し、発表することができる。
	6	・公務員概要（１）－警察官－ ・公務員概要（２）－消防士－	・他の意見を取り入れて、自己の学習について振り返り、調整することができる。
前期 期末	7	・施設見学（１）－警察署－	・陸上自衛隊の仕事内容や組織について理解する。
	8	・施設見学（２）－消防署－	・陸上自衛隊の仕事内容や組織について理解し、発表することができる。
	9	・公務員概要（３）－陸上自衛隊－	・他の意見を取り入れて、自己の学習について振り返り、調整することができる。
後期 中間	10	・公務員概要（４）－海上自衛隊－	・海上自衛隊、航空自衛隊、市・県の組織や仕事内容、運営を理解する。
	11	・公務員概要（５）－航空自衛隊－	・それぞれの自衛隊の特色と相違について整理し、発表することができる。
	12	・公務員試験過去問題 ・公務員概要（６）－行政－	・実際に出题される公務員試験の内容を理解する。 ・他の意見を取り入れて、自己の学習について振り返り、調整することができる。
後期 期末	1	・公務員概要（７）－事務－	・市や県の運営や地域との関係性について理解する。
	2	・各種公務員のまとめ	・市や県の運営や地域との関係性について整理し、発表することができる。
	3		・この項目における自身の学習を振り返り、公務員や地域の問題点について新たな考えを見いだそうとしている。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	公務員の仕事内容や組織について理解し、公務員の仕事がどのように地域に貢献しているのかを理解することができる。	公務員の仕事内容から地域との関係性や問題点を理解し、発表しながら、他のグループの意見を聞くことで多面的・多角的に考察することができる。	これまでの学習内容を踏まえて今後の公務員の問題点を解決しようとしている。
【評価方法】			
授業態度		○	○
発表内容	○	○	○
小レポート	○	○	○
小テスト	○	○	
留意事項	・項目の内容は前後することがあります。		

--	--

【教養】

未来創造応用 B

(健康スポーツ領域)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第2学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2単位
教 科 書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	○オリエンテーション ・各領域説明・選択	・スポーツに関わる職業・資格について知る
	5	○グループワーク フューチャートーク ・スポーツに関する職業について	・メンタルトレーニングの知識を理解する。
	6	○メンタルトレーニング論	
前期 期末	7	○スポーツ系学校見学 ・体育・スポーツ系大学専門学校の見学	・スポーツ系専門学校を訪問し、学校の特色などを理解する
	8	○スポーツ栄養について	・様々なスポーツ関係の大学・専門学校などの特色や内容を理解する。
	9	○熱中症対策について	・スポーツにおける食事や栄養の大切さを学ぶ。
	9	○応急処置・救急救命 ・評価（筆記試験）	・応急手当の知識を理解し、心肺蘇生法やAEDの使用の仕方などを学ぶ。
後期 中間	10	○テーピング(座学・実技・実技試験)	・テーピングの知識を理解し、技術を習得する。
	11	○スポーツ系学校見学 ・体育・スポーツ系大学専門学校を説明会	・スポーツにおけるトレーニングの知識を理解し、実際にトレーニング方法を学ぶ。
	11	○体幹トレーニング	・人間の体の仕組みや筋肉の動かし方について学び体幹トレーニングについて知識や技術を学ぶ。
	12	○ダンスエクササイズ ○健康スポーツについて	・トレーニングについての知識を学び、体幹トレーニングの実践
後期 期末	1	○健康福祉体験	・福祉に関する職業、仕事内容を知る。
	2	・評価（筆記試験）について	
	3	・1年間の反省	
	3		

評価の割合	各観点を平均する			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○	○	○
	3 実技・小テスト	○	○	
留意事項				

【教養】

未来創造応用 B

(ビューティー領域)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第2学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2単位
教 科 書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・カット実習 ・スタイリング実習（ブロー、アイロン） ・セッティング技術（三つ編み、編み込み） ・メイクアップ技術（ナチュラルメイク）	・理容師、美容師、ビューティー系の仕事について知る。 ・実習を通して技術を体験する。
	5		
	6		
前期 期末	7	・浴衣着付け ・ヘアアレンジ実習 ・ネイル技術	・理容師、美容師、ビューティー系の仕事について知る。 ・実習を通して技術を体験する。
	8		
	9		
後期 中間	10	・ワインディング技術 ・美容の社会貢献活動 ・エステティック技術（ハンドエステ）	・理容師、美容師、ビューティー系の仕事について知る。 ・実習を通して技術を体験する。
	11		
	12		
後期 期末	1	・ヘアカラー実習 ・まつ毛エクステンション技術 ・流行メイク演習	・理容師、美容師、ビューティー系の仕事について知る。 ・実習を通して技術を体験する。また、学んだことを今後の進路に役立てる。
	2		
	3		

評価の割合	課題評価と平常点を総合的に評価する。			
考査の実施	なし			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
留意事項	5 考査			

【教養】 未来創造応用 C (自動車領域)

履修学科	普通科（未来創造コース）
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・自動車にかかわる仕事と目指し方 ・自動車整備について ・見学（ディーラー、用品販売店、整備学校） ・自動車の種類と概要	・自動車にかかわる仕事について、実際に企業や学校を見学し、いろいろな職業があることを知る。 ・自動車の歴史や種類、概要についてスライド等を用いて学ぶ。
	5		
	6		
期末	7	・自動車の基礎（エンジン、動力伝達装置、操舵・懸架装置） ・実技応用（エンジンの分解・組立実習）	・自動車の仕組みについて、スライド等を用いて学ぶ。 ・エンジンの分解・組立実習を行い、座学で学んだ仕組みについて確認を行う。
	8		
	9		
後期 中間	10	・実技応用（実車を用いた仕組みの確認や日常点検） ・自動車応用（HV・EV・FCV）（予防安全技術）	・実車を見ながら、学んだ自動車の仕組みや日常点検等について知る。 ・先進技術や予防安全技術についてスライド等を用いて学ぶ。
	11		
	12		
後期 期末	1	・自動車応用（運転支援技術） ・自動車総合	・運転支援技術等の先進技術についてスライド等を用いて学ぶ。 ・一年間学んだ内容について実車を見ながら確認、実技テスト等を行う。
	2		
	3		

評価の割合		各観点を平均する		
考査の実施		定期考査期間には実施しない		
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○	○	○
留意事項	実習の時には制服、作業着（ジャージ）等TPOに応じた服装を指示するので守ること。毎回レポートを課すので、きちんと提出すること。			

【未来創造応用科目】

未来創造応用 A

(ものづくり領域)

履修学科	普通科未来創造コース
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	・オリエンテーション	- ものづくり（クラフト）の仕事を理解する。 - 各工芸分野（陶芸・七宝・選択）の基礎技法を体験しものづくりの楽しさを味わう。
	5	・ものづくり（クラフト）の仕事とは	
	6	・〈クラフト体験Ⅰ〉 ※年間ローテーションで陶芸・七宝・染織の3分野を体験	
前 期 期 末	7	・工房見学 仙台の伝統工芸	- ものづくりに関する工房や施設を見学し、ものづくりの歴史や伝統的な技法について理解する。 - 各工芸分野（陶芸・七宝・選択）の基礎技法を習得し、課題作品を制作する。
	8	・東北生活文化大学との連携Ⅰ 工房見学	
	9	・社会に広がるものづくりのデザインについて ・クラフト体験Ⅱ ※年間ローテーションで陶芸・七宝・染織の3分野を体験	
後 期 中 間	10	・伝統・現代工芸展鑑賞	- ものづくりに関する展覧会等を見学し、ものづくりの歴史や伝統的な技法について理解する。 - 各工芸分野（陶芸・七宝・選択）の基礎技法を習得し、課題作品を制作する。
	11	・東北生活文化大学との連携Ⅱ 体験授業	
	12	・クラフト体験Ⅲ ※年間ローテーションで陶芸・七宝・染織の3分野を体験	
後 期 期 末	1	・工房見学Ⅰ 仙台の伝統工芸	- ものづくりに関する展覧会等を見学し、ものづくりの歴史や伝統的な技法について理解する。 - 自分たちが制作した作品の鑑賞・講評からものづくりの楽しさをあらためて味わう。 - 現代におけるものづくりの役割を理解する。
	2	・クラフト体験Ⅳ	
	3	・※年間ローテーションで陶芸・七宝・染織の3分野を体験	
		・作品鑑賞と講評会 ・まとめ 現代におけるものづくり（クラフト）の役割について	

評価の割合	各観点を平均する			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度		○	○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
留意事項				

【教養】

未来創造応用 C

(ミュージック領域)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第2学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2単位
教 科 書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・オリエンテーション	・興味がある分野の仕事について調べる。 ・医療・福祉・保育などの現場で活躍している仕事、また癒しとしての音楽の世界を学ぶ。 ・映画の世界での音楽の役割を学び、映画音楽が作られる流れを知る。
	5	・音楽が関わっている仕事について	
	6	・音楽療法等について・講話と実践(外部講師) (予定)	
前期 期末		・ヴォーカル（実技）	・エンタテインメントの世界からミュージックのかかわりを考える。 ・ミュージカル映画を通して舞台裏を学ぶ。 ・楽典の基礎を学ぶ。
	7	・鑑 賞	
	8	・キーボード（実技）	
	9	・楽 典	
後期 中間		・前期のまとめ	・童謡の弾き歌いや連弾を体験する。 ・ホール等の施設や舞台裏の見学。 ・ミュージカルに関わる様々な仕事を学ぶ。 ・身近な楽器の体験をする。
	10	・キーボード(実技)	
	11	・ミュージカルができるまで	
	12	・ギター／ヴォーカル／ドラム（実技）	
後期 期末	1	・日本のポピュラー音楽の歴史を学ぶ	・歌謡曲～J-POP までの流れを知る。 ・ミュージックに関するドキュメンタリー的な映画
	2	・鑑 賞	
	3	・一年間のまとめ	

評価の割合	課題、レポート、小テスト、平常点を総合的に評価する			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 出欠状況			○
	3 実技課題	○	○	○
	4 提出課題等	○	○	○
	5 小テスト	○	○	○
留意事項				

【教養】

未来創造応用 B

(ファッション領域)

履修学科	普通科（未来創造コース）
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・オリエンテーション・職業について	・職種の紹介（ファッションに関わる仕事）。
	5	・布を作るとは	・流行の流れについて知り、ファッションへの影響を理解する。
	6	・接客販売と消費者の心をつかむには	・販売戦略と消費者心理について知る。
前期 期末	7	・メガネとアパレルについて	・フレームの形・色・男女別・年齢別による合わせ方を理解する。
	8	・制服ができるまで関わる仕事	・服ができるまでの行程を理解し、制作するまで関わる仕事について知る。
	9	・繊維と汚れ・洗濯について	・最新の繊維を知り、汚れの種類と手入れの仕方を習得する。
後期 中間	10	・SDG s とは	・SDG s を理解し、単に利益重視ではいけないということを学び、実践する。
	11	・デザイン	・ファッション誌・HP・SNSでどのように宣伝するのかを理解する。
	12	・アクセサリとアパレル	・衣服だけではアパレルは成り立たないということを知り、アクセサリの種類などを知る。
後期 期末	1	・パーソナルカラーを知る	・色について知り、職業に生かすための目を養う。
	2	・VMD	・VMD という職種を知り、演習する。
	3	・小物制作 ・ファッションの仕事のまとめ	・まとめ

評価の割合	観点別 30% 考査 70%			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
平常点の評価 (30点)	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む意欲
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○		○
	3 レポート		○	○
留意事項				

【教 養】

看護医療探究

履修学科	普通科（看護医療コース）
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・看護・医療学総論 1) 看護の本質	・看護の定義、看護の対象、看護の機能と役割を理解する。また、医療系分野において幅広い知識を習得する。 ・看護活動の分野、看護職とその倫理を理解する。 ・医療系分野において幅広い知識を習得する。 ・応急処置から災害時における看護について、幅広く理解する。
	5	2) 看護倫理	
	6	・公衆衛生看護 ・成人看護学概論 ・災害看護学総論	
前期 期末	7	・小児看護学総論	・小児看護の機能と意義や問題点を理解する。 ・広く女性の一生を視野に入れた性と生殖に関する健康問題とその看護について学習する。 ・生命維持管理装置などの解説を通し、臨床工学技士の仕事内容や役割を理解する。
	8	・母性看護学総論	
	9	・臨床工学概論	
後期 中間	10	・言語発達学	・言語発達学を通し、言語聴覚士の仕事内容や役割を理解する。 ・視能検査機器などの解説を通し、視能訓練士の仕事内容や役割を理解する。 ・リハビリテーション分野の知識の習得とその現状について理解する。
	11	・視能検査機器概論 ・リハビリテーション概論 1) 理学療法 2) 作業療法	
学年 末	12	・生命倫理学	・医療従事者と臨床哲学の関連性について、対話、問答、会話などを通して理解する。 ・リハビリテーションを必要とする患者の心理的問題を理解する。 ・現代医療の問題などを含め、チーム医療の重要性を理解する。
	1	・障害発達心理学	
	2	・リハビリテーション心理	
	3	・チーム医療論	

評価の割合	考查、課題、平常点を総合的に評価する。				
考查の実施	前期期末・学年末				
平常点の評価 (40点)	主な評価内容	評価の観点			
		関心・意欲 態度	思考・判断 表現	技能	知識・理解
	1 授業態度	○	○		○
	2 出席状況	○			
	3 課題提出	○	○	○	○
	4 小テスト・レポート	○	○	○	○
留意事項	・看護医療系連携講座として職業理解も含めた、外部講師による模擬講義を実施。 ・演習については、真摯な姿勢で取り組み、レポートや報告書はしっかり書くこと。				

【商業科】

課題研究（原価探究）

履修学科	商業科
履修学年	第2学年
履修形態	必修選択
履修単位	3単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	ガイダンス 探究① 原価計算の基礎と費目別計算について考える	製造業の会計処理、製造原価の構成に関して探究する学習を行います。 製品の製造工程にはどのようなものがあるのか考えます。 販売されている製品を取り上げ、その製造原価について探究活動を行います。
	5		
	6		
前期 期末	7	探究② 個別原価計算と総合原価計算、仕損・減損について考える	個別原価計算と総合原価計算の違いがどこにあるのかを探ります。 仕損や減損の処理の課題を見つけ、解決策を探ります。
	8		
	9		
後期 中間	10	探究③ 本社・工場の取引と標準原価計算について考える	本社と工場間の取引にはどのようなものが考えられるのかを探ります。 標準原価計算の原価差異をなくすための解決策を探ります。
	11		
後期 期末	12	探究④ 直接原価計算と全部原価計算について考える まとめ	変動費、固定費について学習します。 製造業者を取り上げ CVP 分析を行い、課題解決を図ります。 探究学習の成果についてまとめ、発表します。
	1		
	2		
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査 90%、考査外 10%）思・判・表（考査 60%、考査外 40%）主体的（考査外 100%） 定期考査の割合（知・技 60%、思・判・表 40%）			
考査の実施	前期中間 ・ 前期期末 ・ 後期中間 ・ 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
	3 課題提出	○	○	○
留意事項	使用する教材は、授業で説明します。			

【商業科】

課題研究（簿記探究）

履修学科	商業科
履修学年	第2学年
履修形態	必修選択
履修単位	3単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・ガイダンス 探究① 株式会社の取引について考える	・取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見つけ解決策を探ります。
	5		
	6		
前期 期末	7	探究② 企業決算の諸問題について考える。	・決算の方法の妥当性と実務における課題を見つけ解決策を探ります。
	8		
	9		
後期 中間	10	探究③ 記帳の効率化と妥当性について考える。	・記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見つけ解決策を探ります。
	11		
後期 期末	12	まとめ	課題研究の成果についてまとめ、発表します。
	1		
	2		
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考查の割合は以下の通り。 知・技（考查 90%、考查外 10%）思・判・表（考查 60%、考查外 40%）主体的（考查外 100%） 定期考查の割合（知・技 60%、思・判・表 40%）			
考查の実施	前期中間 ・ 前期期末 ・ 後期中間 ・ 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
	3 課題提出	○	○	○
留意事項	使用する教材は授業で説明します。			

【商業科】

課題研究

(ビジネス計算探究)

履修学科	商業科
履修学年	第2学年 又は 第3学年
履修形態	必修選択
履修単位	3単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	ガイダンス	○ビジネス計算に関する課題を発見し、その解決に向けた探究学習を行う。
	5	探究① ビジネス計算について考える	
	6		
前 期 期 末	7	探究② 外国貨幣と税金計算について考える	○外国貨幣を調べ、日本円との換算比較をまとめる。 ○税金計算（所得税・法人税）の仕組みを知り、実際に計算し探究学習を行う。
	8		
	9		
後 期 中 間	10	探究③ 商慣習について考える	○商慣習に基づいたビジネス計算の問題点を発見し、探究学習を行う。
	11		
後 期 期 末	12	まとめ	○ビジネス計算分野の学習項目を取り上げ、自分で作問し問題の解説を行う。 ○年金計算の仕組みを知り、実際に計算し比較分析しながら探究活動を行う。
	1		
	2		
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査 90%、考査外 10%）思・判・表（考査 60%、考査外 40%）主体的（考査外 100%） 定期考査の割合（知・技 60%、思・判・表 40%）			
考査の実施	前期中間 ・ 前期期末 ・ 後期中間 ・ 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	○使用教材は授業で提示します。 ○2年次に「ビジネス計算探究」を選択した生徒は、3年次に「ビジネス計算探究」を選択することはできません。同様に、3年次に「ビジネス計算探究」を選択する予定の生徒は、2年次に「ビジネス計算探究」を選択することはできません。			

【商業科】

ビジネス・コミュニケーション

履修学科	商業科
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	ビジネス・コミュニケーション（実教出版）

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期中間	4	第1章 企業の組織と人間関係	- 企業の組織と意思決定の流れ、組織の一員として働く場合の心がまえを身につけ、人的ネットワークを構築することの重要性を学びます。 - 一つひとつの動作を丁寧に行うことで、相手への敬意を表すことができ、誠実で礼儀正しい印象を相手に与えられることを学びます。
	5	第2章 応対に関するビジネスマナー	
	6		
前期期末	7	第3章 交際に関するビジネスマナー	- ビジネスにおける交際や食事のマナーの重要性を学びます。 - 接客に関する知識と心がまえについて学びます。 - コミュニケーションの役割や種類、場面や心得、思考方法などについて学びます。
	8	第4章 接客に関するビジネスマナー	
	9	第5章 コミュニケーションの役割と思考方法	
後期中間	10	第6章 ビジネスにおけるコミュニケーション	- ディスカッションやプレゼンテーション、交渉、苦情対応、商品説明、ソーシャルメディアでの情報発信などの場面における技法について学習します。 - 会議の進め方やビジネス文書の作成方法などを学びます。
	11	第7章 コミュニケーションスキルとビジネススキル	
後期期末	12	第8章 企業活動のグローバル化	- グローバル化の進展によって、世界がどう変化しているのかを学びます。 - 海外出張やビジネス会議、交渉での英語の会話を学びます。 - 英文レターや電子メールの基本構造と簡潔な表現を学びます。 - ビジネスにおけるプレゼンテーションについて学びます。
		第9章 ビジネスの会話	
	1	第10章 ビジネス文書と電子メール	
	2	第11章 ビジネスにおけるプレゼンテーション	
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 ・ 前期期末 ・ 後期中間 ・ 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	- ビジネスの世界では、人と人とのつながりが大切です。社内・社外の人と良好な信頼関係を築き、コミュニケーションを図ることで、ビジネスを円滑に進めることができます。この科目を学ぶことは、商業科目の土台ともなります。しっかり学習しましょう。 - 学習到達度測定の一環として、12月に全商ビジネスコミュニケーション検定を受験します。			

【商業科】

マーケティング

履修学科	商業科
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	マーケティング（実教出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1章 マーケティングの概要	・マーケティングの概要、歴史、環境の分析、実行する手順について学びます。 ・消費者の行動について学びます。 ・市場調査の意義と手順について学びます。
	5	第2章 消費行動の理解	
	6	第3章 市場調査	
前期 期末	7	第4章 S T P	・市場を細分化し、対象となる消費者を選択し、製品やサービスのイメージを整理していく、S T Pについて学びます。 ・製品政策について学びます。 ・企業の売上や利益に直結する重要な要素である価格政策について学びます。
	8	第5章 製品政策	
	9	第6章 価格政策	
後期 中間	10	第7章 チャネル政策	・企業が消費者に製品を購入してもらうためには、どのような経路で販売すればよいかを学びます。 ・消費者行動の購買行動を促進するさまざまなプロモーションの種類とその特徴について学びます。
	11	第8章 プロモーション政策	
後期 期末	12	第9章 マーケティングのひろがり まとめ	・マーケティングの考え方を深めたり、さまざまな分野に応用したりするマーケティングのひろがりについて学びます。 ・1年間に学んだことの振り返りとして、検定試験の模擬問題や過去問題にも挑戦します。
	1		
	2		
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 ・ 前期期末 ・ 後期中間 ・ 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	・マーケティングは、消費者の「欲しい」であるニーズに寄り添い、企業の「売りたい」と消費者の「買いたい」を橋渡しする学問です。商業の基本となる考えになります。しっかり学習しましょう。 ・学習到達度測定の一環として、2月に全商商業経済検定（マーケティング）を受験します。			

【商業科】

財務会計Ⅰ

履修学科	商業科
履修学年	第2学年
履修形態	選択（進う）
履修単位	4単位
教科書	新財務会計Ⅰ（実教出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計 第2章 企業会計制度と会計法規	財務会計の基礎を身につけ、会計の意味や機能がどのようなものか、また会計法規の役割について理解を深めます。 貸借対照表の区分、様式を学習します。 流動資産の内容、分類について学習します。
	5	第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表のあらまし	
	6	第4章 資産の意味・分類・評価 第5・6章 流動資産 当座資産、棚卸資産 等	
前期 期末	7	第7~9章 固定資産 有形固定資産、無形固定資産 等	固定資産、流動負債、固定負債の内容、分類について学習します。 減価償却や投資その他の資産の期末評価について学習します。 純資産の内容、分類について学習します。 前期の学習のまとめとして貸借対照表を作成します。
	8	第10~12章 負債の意味と分類 流動負債 固定負債	
	9	第13~19章 純資産の意味と分類 資本金 資本剰余金 利益剰余金 自己株式 新株予約権 貸借対照表の作成	
後期 中間	10	第3編 損益計算書 第20~27章 損益計算書のあらまし 損益計算の意味と基準 売上高 売上原価 販売費及び一般管理費	損益計算の意味と基準を理解します。 まとめとして、損益計算書の作成をします。
	11	営業外収益・営業外費用 特別利益・特別損失 損益計算書の作成 その他の財務諸表	
後期 期末	12	第4編 その他の会計処理 第28章~30章 役務収益・役務原価 外貨建取引 税効果会計	サービス業の会計処理、外貨建て取引の会計処理、損金、益金の認識基準について学習します。 利害関係者に対する情報開示の必要性、財務諸表分析の内容と方法について学習します。 親会社、子会社の会計処理の方法について学習し、まとめとして連結財務諸表の作成をします。
	1	第5編 財務諸表の活用 第31章~第34章	
	2	財務諸表のディスクロージャー 財務諸表分析	
	3	連結財務諸表の作成	

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 ・ 前期期末 ・ 後期中間 ・ 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
	3 課題提出	○	○	○
留意事項	○学習到達度を図るため以下の検定試験を受験します。 1月 全国商業高等学校協会 簿記実務検定試験 1級（会計）			

【商業科】

ソフトウェア活用

履修学科	商業科
履修学年	第2学年
履修形態	必修（情ビ）、選択（進ラ）
履修単位	4単位
教科書	ソフトウェア活用（実教出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	1 章 企業活動とソフトウェア活用	・ビジネスにおけるソフトウェアの活用を考え、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、その活用方法や障害対策、情報資産を保護するための対応方法などの知識や技術を身につける。
	5	2 章 情報通信ネットワークの活用	
	6		
前期期末	7	3 章 表計算ソフトウェアの活用	・表計算ソフトウェアを通し、情報の集計と分析について、様々な集計や分析方法、分析結果を適切に表現する能力を身につける。 ・データベースの特徴や基本的な機能を理解し、SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法についての知識や技術を身につける。
	8	4 章 データベースソフトウェアの活用	
	9		
後期中間	10	5 章 業務処理用ソフトウェアの活用	・グループウェアや販売管理ソフトウェア等を活用することの利点と、それらソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について知識や技術を身につける。
	11		
後期期末	12	6 章 情報システムの開発	・情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即して理解するとともに、情報システムの開発の中でのプログラミングにおいて、アルゴリズムについての基礎的な技術、プログラミングに必要な関連する知識、技術を身につける。
	1		
	2		
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 ・ 前期期末 ・ 後期中間 ・ 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	・授業のクラスは習熟度別に編成します。 ・学習到達度測定の一環として、以下の検定試験を一つの目標に学習します。 9月、1月 全国商業高等学校協会主催情報処理検定			

【美術科】

美術史

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	〈西洋美術史〉 ルネサンス以前	毎回いくつかの作品を取り上げ、鑑賞を通して西洋美術史についての基本知識を身につける。専門用語、ジャンルや時代区分を知り、各時代の代表的な作品の特徴を理解する。
	5	ルネサンス	
	6	バロック・ロココ	
前期 期末	7	〈西洋美術史〉 ロマン主義～印象派	毎回いくつかの作品を取り上げ、鑑賞を通して西洋美術史についての基本知識を身につける。専門用語、ジャンルや時代区分を知り、各時代の代表的な作品の特徴を理解する。 また、各自あるアーティストについて調べてまとめることで理解を深める。
	8	世紀末美術	
	9	20世紀以降の美術	
後期 中間	10	〈日本美術史〉 先史・古墳時代の美術	毎回いくつかの作品を取り上げ、鑑賞を通して日本美術史についての基本知識を身につける。専門用語、ジャンルや時代区分を知り、各時代の代表的な作品の特徴を理解する。
	11	古代美術（飛鳥時代～平安時代）	
	12	中世美術（鎌倉時代～室町時代） 近世美術（桃山時代～江戸時代）	
後期 期末	1	〈日本美術史〉 近代と現代の美術（明治時代～昭和時代）	毎回いくつかの作品を取り上げ、鑑賞を通して日本美術史についての基本知識を身につける。専門用語、ジャンルや時代区分を知り、各時代の代表的な作品の特徴を理解する。 また、各自あるアーティストについて調べてまとめることで理解を深める。
	2	戦後の美術	
	3	現代美術	

評価の割合	課題評価と平常点を総合的に評価する。			
考査の実施	なし			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
留意事項	5 考査			

【美術科】

素描

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	〈静物デッサンⅠ〉 静物デッサン	- 基本形態の理解を深める。 - 様々なモチーフの形体や材質や関係性、空間などを意識しながら描く。
	5	形・明暗・材質・空間の理解	
	6		
前期 期末	7	〈石膏デッサン〉 石膏像（胸像）	- 石膏像を注意深く観察し、構図や形、明暗、材質といった要素を総合的に学ぶ。 - 与えられたモチーフを構成し、時間内にデッサンを仕上げる。
	8	形・明暗・空間の理解	
	9	〈構成デッサン〉 自画像	
後期 中間	10	〈静物デッサンⅡ〉 静物デッサン	- 様々なモチーフの形体や関係性、空間などを意識しながら描く。 - 材質の違うモチーフをよく観察してデッサンを仕上げる。
	11	形・明暗・材質・空間の理解	
	12		
後期 期末	1	〈人物デッサン〉 人体の理解	- 人物モデルをスケッチすることで人体の構造の理解を深める。 - 構図やプロポーション、動きなどを意識しながら描く。 - 与えられたモチーフを構成し、時間内にデッサンを仕上げる。
	2	構図・プロポーションの理解	
	3	〈構成デッサン〉 手	

評価の割合	課題評価（考査含む）と平常点を総合的に評価する。			
考査の実施	年2回実施 前期期末・後期末			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
	5 考査	○	○	
留意事項				

【美術科】

鑑賞研究

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	基礎演習Ⅰ ※領域を選択 美術領域基礎（洋画）（日本画）（版画） デザイン領域基礎	- 洋画、日本画、版画の性質を理解し、道具の使い方を学ぶ。描画の基本的な技法を体験する。 - デザインに関する基礎を学び、ビジュアルデザイン表現を学ぶ。製品デザインについて学ぶ。 - 総合造形に関する基礎を学び、素材に触れながら、構成物、オブジェ、彫刻などの立体表現の技術を学ぶ。 - 映像表現の基礎や撮影技術などを学ぶ。
	5	（デザイン基礎Ⅰ）（デザイン基礎Ⅱ）	
	6	総合造形領域基礎 （造形基礎Ⅰ）（塑像基礎Ⅰ） 映像領域基礎	
前期 期末	7	基礎演習Ⅱ ※領域を選択 美術領域基礎（洋画）（日本画）（版画） デザイン領域基礎	- 洋画、日本画、版画の性質を理解し、道具の使い方を学ぶ。描画の基本的な技法を体験する。 - デザインに関する基礎を学び、ビジュアルデザイン表現を学ぶ。製品デザインについて学ぶ。 - 総合造形に関する基礎を学び、素材に触れながら、構成物、オブジェ、彫刻などの立体表現の技術を学ぶ。 - 映像表現の基礎や撮影技術などを学ぶ。
	8	（デザイン基礎Ⅰ）（デザイン基礎Ⅱ）	
	9	総合造形領域基礎 （造形基礎Ⅰ）（塑像基礎Ⅰ） 映像領域基礎	
後期 中間	10	基礎演習Ⅲ ※領域を選択 〈課題研究①〉	- 美術領域の表現・技法を研究し、独自の表現を迫及する。 - デザインの基礎を活かして、イラストレーションや建築表現などを学ぶ。 - 課題制作を通して、立体に対する観察力、を深め基礎的な造形力と創造的な感覚を養う。 - 映像作品の制作を通し、表現力を身につける。
	11	美術領域の技法研究	
	12	デザイン領域の技法研究 総合造形領域の技法研究 映像領域の技法研究	
後期 期末	1	基礎演習Ⅳ ※領域を選択 〈課題研究②〉	- 美術領域の表現・技法を研究し、独自の表現を迫及する。 - デザインの基礎を活かして、イラストレーションや建築表現などを学ぶ。 - 課題制作を通して、立体に対する観察力、を深め基礎的な造形力と創造的な感覚を養う。 - 映像作品の制作を通し、表現力を身につける。
	2	美術領域の技法研究	
	3	デザイン領域の技法研究 総合造形領域の技法研究 映像領域の技法研究	

評価の割合	課題評価と平常点を総合的に評価する。			
考査の実施	なし			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
	5 考査			
留意事項				

【美術科】

グラフィック基礎

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	I. デザインの仕事 ・デザインとデザイナー ・デザインワークフロー	- デザインの現場における実際のワークフローに準じて、仕事の内容や注意点などを理解し、デザインのワークフローの全体像を把握する。 - Apple iMac - Adobe Photoshop、Illustrator
	5		
	6		
前期 期末	7	II. 課題制作(1) ・名刺・ポストカードを作る ・ピクトグラムを作る ・ロゴマーク（ラベル）を作る	- デザインの仕事として代表的なケースを厳選し、ヒアリングから完成までの流れをイメージする。 - クライアントから聞き取り（ヒアリング）をすることから課題がスタートし、デザインステップに沿って進行します。
	8		
	9		
後期 中間	10	III. 課題制作(2) ・ポスターを作る ・チラシを作る	- クライアントからの会話の中で得られた情報、ニーズを感じて、考え、調査しそれらを元にデザインに表現していく過程をしっかりと身につけていく。 - 自由な発想で課題を制作させる。 - 紙媒体以外の制作
	11		
	12		
後期 期末	1	IV. テクニックガイド ・デザインプランとコンセプト ・レイアウトと構図 ・色と配色 ・画像とフォント	- それぞれの場面で必要な知識や、役に立つ技術などを理解させる。 - 印刷物としてのデータの作り方。 - デザインワークの効率化や品質向上するための知識を理解させる。
	2		
	3		

評価の割合	課題評価と平常点を総合的に評価する。			
考査の実施	なし			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
留意事項	5 考査			

総合的な探究の時間

テーマ「進路探究」

履修学科	普通科（未来創造，保育） 美術・デザイン科
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	1単位
テキスト	GATEWAY（デジタル教材）など

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	○進路学習	・自分と社会の関わりのなかで進路を考える。
	5	○探究学習	・探究の実践 【使用教材】GATEWAY
	6	○SDGs テーマ別講話	・SDGs に関する社会的な問題を考察する。
前期 期末	7	○探究学習	・探究の実践、グループ発表 【使用教材】GATEWAY
	8	○社会的課題の考察	・【使用教材】現代を知る plus+チェック&ワーク
	9	○高大・高専・産学連携（美デ科）	・業界探究をポートフォリオにまとめる。（初期審査）
後期 中間	10	○探究学習	・探究の実践、グループ発表 【使用教材】GATEWAY
	11	○社会的課題の考察	・【使用教材】現代を知る plus+チェック&ワーク
	12	○高大・高専・産学連携（美デ科）	・業界探究をポートフォリオにまとめる。（中間審査）
後期 期末	1	○表現学習	・小論文の基礎を学ぶ。自分の将来の目標とそれに向けてしなければならないことについて具体的に書く。 【使用教材】ステップ基礎小論文（STEP2）
	2		
	3	○1年間のまとめ	・総合的な探究アンケート
		○2学年プレ卒展（美デ科）	・作品の展示、発表（最終審査）

評価の割合	所見による評価			
考査の実施	なし			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・理解	思考力・判断力 表現力等	主体的に学習に 取り組む態度
	1 授業態度	○	○	○
	2 出席状況			○
	3 探究学習の成果	○	○	○
	4 表現学習の成果	○	○	○
留意事項	・「継続は力なり」です。授業を休まないように心掛けてください。 ・学習計画は、進路状況によって実施時期や内容を変更する場合があります。			

総合的な探究の時間

テーマ「進路探究」

履修学科	普通科（進学・看護医療コース）
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	1単位
テキスト	locus ワークブック 志望理由書テキスト（マイナビ）

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	○地域の課題について考える ○地域の産業を知る	【ねらい】 ●「学問」の視点で、「地域の課題解決」に挑戦する。 ●進路について具体的に検討する。 【教材】 ：locus ワークブック・志望理由書テキスト（マイナビ） ○地域の課題についての基本的な考え方を学び、自分で地域の課題を見つける。
	5		
	6		
前期 期末	7	○地域の課題に学問でアプローチする	○上級学校の学びについて知り、教科や自身の進路とのつながりを考える。
	8		
	9		
後期 中間	10	○学問や産業と行政がどう連携できるかを知る ○地域の未来と自分の未来を考える ○発表（ポスターセッションまたはスライドなど）	○学びが社会課題をダイレクトに解決している事例を知ること ことで「課題解決の実現」を学ぶ。 ○自分の意見や考えを表現する力を身に付ける。
	11		
学年 末	12	○志望理由書の書き方を学ぶ ・進路研究編 ・自己分析編 ○志望理由書を作成する	○「志望理由」の重要性を理解し、進路の明確化のための自己分析を「進路研究編」「自己分析編」に細分化することで、自分自身と希望の進路先のつながりを具体的に考える。
	1		
	2		
	3		

評価の割合	所見による評価			
考査の実施	なし			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 授業態度	○	○	○
	2 出席状況			○
	3 ワーク・レポート	○	○	○
	4 志望理由書	○	○	○
留意事項				

